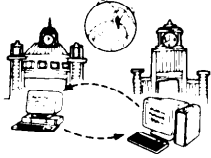


巻頭言



新時代に対応した学会へ

発 田 弘*



昨秋のパソコン用新ソフトウェアの発売に伴う大騒ぎを見て時代の変化を感じた方も多いだらうと思う。小生は、以前人気テレビゲームの発売で行列が出来た時の光景を思い出しパソコンが今や家電並に身近な存在となりプロフェッショナルな場面から家庭へと入ってきている事を実感した。さらに、最近ではインターネットが騒がれている。

このような時代になってコンピュータ利用者の意識もすっかり変わってしまった。パソコンは多くの場合コンピュータとしてとらえられていない。テレビの写る原理を知らなくてもテレビ番組を楽しめるのと同じく情報処理の理論や原理などをほとんど知らなくてもパソコンを活用出来るのである。従ってパソコンの普及率が高まってもそれに比例して当学会の潜在会員人口が増えた訳ではなく、最近の当学会々員数の漸減傾向も決して不思議な現象ではないと思う。

学会が発展するにはこうした時代の変化に対応して学会自身も変わる必要がある。それについては既に数々の改革の試みが進められておりその成果があがりつつあるが、まだ改革の余地が多々あるようにみえる。

その一つは学会からの情報発信の強化である。既に試験的にホームページを開設しているがこれの充実をはかり、当学会に関係する情報を積極的に開示すべきであると考え。米国の例では政府や企業なども積極的に情報を開示しており、こんなものかと思うような情報がインターネットでアクセスできる。勿論、会員の権利や会員に対してのみ与えられるべき情報は保護しなければならないが、広く世界に知らせた方が良い情報も沢山あるはずである。

また、理論や技術上の問題だけでなく、コンピュータを使った犯罪、コンピュータ教育、日本の

情報処理産業の振興策など当学会の意見を問われても良いと思われる社会的問題も沢山ある。コンピュータに関する事が社会で話題になった際には当学会の見解に世の中が注目するくらいの存在になりたいと思うが、それには日頃から積極的に情報発信している事が必要であろう。

情報発信の強化等を通じて会員に対してより開かれた学会にしていく事も重要である。学会を発展させるにはその活動への会員の理解と支持を得る事が必要であり、その為には学会の実態や方針を会員に分かりやすく知らせなければならない。今でも知ろうと思えば何でもわかるようになってはいるが、もっと容易に会員に理解してもらえるように積極的な工夫が必要ではなからうか。たとえば学会の予算と決算は報告されているがこれも数字の羅列だけでなくグラフィックな表現を工夫してみたらどうであろうか。また年会費一人9600円の内何円が学会誌発行費用に使われ、何円が学術研究の支援に使われているかという表現にすれば会員はもっとはっきりと学会の実状を認識出来るように思う。誰にも容易に理解できる形での積極的な情報公開・情報発信を会員向けにも充実すべきである。

これらの活動の為には電子化を一層推進して効率的な学会運営を実現することが必須であろう。それに関しては、インターネットなどを利用すれば効率的且つ会員にとっても便利なシステムが構築出来るのではないかと思う。そして「バーチャル学会」を追求してみてもどうだろうか。当学会がどこよりも先にそれを追求してコンピュータとネットワークの可能性およびそれに伴う問題点や課題を世に示せば、それが何よりの情報発信となりまた学会の発展の原動力になるであろう。

(平成8年2月6日)

* 本会監事 日本電気(株)